

夏休み、みんなくの観覧料が
無料になります！

期間 7月21日(土)～8月26日(日)
くわしくはホームページ、電話でご確
認ください。

夏のみんぱくフォーラム2012
知りたい、触れたい、調べたい
「みんなく流」探究のすすめ
会期 8月25日(土)まで

◆関連イベント
◆連続講座(全6回)
「博物館にさわる」
「さわる」をテーマにしてユニークな研究・
実践に取り組んでいるゲストを招き、幅広い
角度から「さわる展示」の魅力と可能性を伝
えます。

▼7月14日(土)「サワツテ ミル カイ」
講師 大野照文
(京都大学総合博物館教授、古生物学)

みんなくセミナー

会場 国立民族学博物館 講堂
時間 13時30分～15時(13時開場)
定員 450名(当日先着順)
参加費 無料(展示をご覧になる方は、観覧料が必要です)

第410回 7月21日(土)

「探究ひろば関連」
情報アクティビスト宣言——市民の知的探究と博物館
講師 飯田卓(国立民族学博物館准教授)



みんなくは、古いもの
を展示するだけでなく、さまざまな読
みものや映像資料をも提供する総合メ
ディアです。その役割は、インターネット
が普及したこんにち、どのような意味
を帯びているのでしょうか。とくに近年利
用が盛んなインターネット上の双方向メ
ディアを意識しながら、市民レベルの知
的探究と博物館の役割を考えます。

第411回 8月18日(土)

「探究ひろば関連」

ソーシャルメディアに見る人とモノの関係
講師 濱崎雅弘(産業技術総合研究所 客員研究員)
聞き手 中村嘉志(国立民族学博物館 客員教員)

今回はこれまでとは少し毛色の異なる話題をお届けし
ます。人と人の関係を、コンピュータネットワーク上
でのデジタル作品作りの視点から考えてみます。デジ
タル作品と聞くと無味乾燥なイメージを抱く方も多
いと思います。しかしそこにはモノと人、人と人との関
係に依拠したモノづくりが存在します。意外に泥臭い
ものです。これらを近年流行のソーシャルメディアと
絡めてお話しします。

▼7月16日(月・祝)「さわる子、育て」触発の育児論」
講師 小西行郎(同志社大学赤ちゃん学研
究センター教授、発達神経学)

▼7月28日(土)
「触れることから生まれる武道」
講師 嶋本勝行(大阪府合気道連盟理事長)
各日13時30分～16時(開場13時)
場所 第5セミナー室(先着100名)
※参加無料、申込不要

企画展プレ展示

「写真で見る東日本大震災と被災文化遺産
のレスキュー」

9月27日(木)から開催の企画展「記憶をつ
なく—津波災害と文化遺産」で使用予定
の写真パネルを事前に公開し、展示の一部を
紹介します。

会期 8月21日(火)まで
会場 企画展示場A

みんなく映画会/みんなくワールドシネマ
「路上のソリスト」
日時 7月14日(土) 13時30分～16時30分
(開場13時)

会場 講堂(先着450名)
※参加無料、申込不要
※当日10時から講堂入口にて整理券を配布

みんなく映画会(全5回)日印国交樹立60周年記念
「インド・クワシック映画特集」

インドの各地・各言語による、不朽のクラ
シック名画を、その時代、背景などについて
の解説つきで上映し、インド文化への理解を
深めます。

▼7月15日(日)「放浪者」
1951年、ラージ・カプール監督、
ヒンディー語、175分
解説：溝上富夫(大阪外国語大学名誉教授)

▼7月16日(月・祝)「踊り子」
1981年、ムサツアル・アリー監督、

ウルドゥー語・ヒンディー語、145分
解説：田森雅一
(国立民族学博物館外来研究員)

▼7月22日(日)「音楽ホール」
1958年、サタジット・レイ監督、
ベンガル語、99分
解説：サンディップ・K・タゴール
(追手門学院大学名誉教授)

▼8月4日(土)「ジャンカラバラナム」
1979年、K・ヴィシヌワナート監督、
テルグ語、145分
解説：寺田吉孝(国立民族学博物館教授)

▼8月5日(日)「第一の敬意」
1985年、バーティライジャー監督、
タミル語、163分
解説：杉本良男(国立民族学博物館教授)

以上映画会の開催場所 講堂(先着450名)
※参加無料、申込不要

国際シンポジウム

手話言語と音声言語のシンポジウム(1)
「言語の記述・記録・保存」
日時 7月29日(日) 9時～17時30分
会場 講堂(定員450名)
※参加無料、要申込
※同時通訳(英語・アメリカ手話・日本語・
日本語手話)あり

夏休みでもワークショップ
自由研究はこれで解決！「働く」って何？
——アフリカの人々の生活をみてみよう！
日本とは異なる、アフリカの人ひとの仕事や
働き方を学び、大きな絵本を作ります。

日時 8月21日(火) 10時30分～16時30分
(受付10時より)
会場 本館展示場内ナビひろば他
対象 小学3年～6年生(保護者同伴であ
れば小学1、2年生児童も参加可能)
※参加無料、要申込

友の会講演会(大阪)

会場 国立民族学博物館 第5セミナー室
定員 96名(当日先着順、会員証提示)

第410回 8月4日(土) 14時～15時
ビルマ/ミャンマーの「絆」の力
講師 田村克己(国立民族学博物館教授)
ビルマ(現国名ミャンマー)は、今もとも注目をあびて
いる国のひとつです。ここでは人と人とのつながりがとて
も大切です。ビルマの人間関係のあり方をおしてこの
国の魅力を紹介し、私たち自身の社会もふり返って考え
てみましょう。

第411回 9月1日(土) 14時～15時
聖書を生きたる人びと
——南部アフリカにおけるキリスト教独立教会の現在
講師 吉田憲司(国立民族学博物館教授)
南アフリカやジンバブエ、ザンビアなど南部アフリカは、
現在、地球上でキリスト教が最も急速にひろがっている地
域です。治療儀礼など伝統的な信仰とのせめぎ合いの中
で、聖書の世界を忠実に生きようとしている人びとの姿
を追います。

東京講演会&アフリカ料理を味わう食事会

第103回 9月22日(土) 15時～17時
アフリカを食べる
講師 竹沢尚一郎(国立民族学博物館教授)
西アフリカのニジェール川流域に暮らすボソの人びとは、
米を主食とし、副食に魚を食べるといって日本と似通った
食生活をしています。昔ながらのやり方で魚を追って暮
らす彼らの生活を、映像を用いながら紹介します。
講演会終了後にはマリやセネガルなど西アフリカ地域の
家庭料理をじっさいに味わう食事会もおこないます。(食
事会は17時半～19時)

参加費 講演会のみ3000円(会員外5000円) ※飲食物付
食事会3500円(会員外4000円)
※講演会参加費含む。食事会の内容など詳細は、
「友の会」まで。

会場 レストラン「カラバッシュ」
(JR浜松町駅から徒歩すぐ)
定員 40名(要申込)

博学連携教員研修ワークショップ2012 in みんなく
「学校と博物館でつくる国際理解教育
—新しい学びをデザインする—」

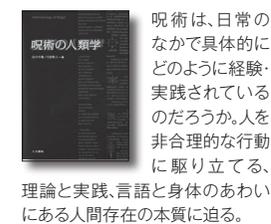
国立民族学博物館を活用した国際理解教育
の実践事例の紹介やワークショップを通して
国際理解教育における博学連携の意義や可
能性について考えます。

日時 8月7日(火) 10時20分～17時
(受付10時より)
会場 セミナー室及び本館展示場内
【第1部】講演とミニシアター
【第2部】ワークショップ
※参加無料(定員に余裕があるワークショップ
は、当日参加も可能です。)

※イベントや刊行物について、くわしくはホーム
ページをご覧ください。
※電話でのお問い合わせ受付時間は9時から17
時(土日祝を除く)です。

刊行物紹介

■白川千尋・川田牧人 編
『呪術の人類学』
人文書院 定価：5,250円



呪術は、日常のなかで具体的にどのような経験・実践されているのだろうか。人を非合理的な行動に駆り立てる、理論と実践、言語と身体のおわいにある人間存在の本質に迫る。

■岸上伸啓 著
『捕鯨の文化人類学』
成山堂書店 定価：3,990円



歴史的に見れば、人類はクジラを食料資源やその他の資源として利用してきた。本書は、現代の捕鯨問題を念頭におきつつ、世界各地の捕鯨や捕鯨文化の歴史と現状を学際的に比較検討した論文集である。

国立民族学博物館
ミュージアム・ショップ

電話 06-6876-3112
FAX 06-6876-0875
e-mail shop@senri-f.or.jp
水曜日定休

ウェブサイトもご覧ください。
オンラインショップ
「World Wide Bazaar」
http://www.senri-f.or.jp/shop/

イランの手描きタイル(ペルシャタイル)

イランの手描きタイルは、職人がひとつひとつ丁寧に
手描きした、世界で一枚だけのタイルです。

お気に入りの額に入れて飾ったり、花瓶敷きを利用し
たり、他のタイルと組み合わせたりオリジナルのテー
ブルを作ってみたりと、いろいろとお楽しみいただけます。



手描きタイル(ブルー・ピンク) 各2,750円(税込)